

令和6年度版
千曲市公共施設個別施設計画
学校施設編



令和6年3月
長野県千曲市

— 目 次 —

1. 計画策定の背景、目的と位置付け	
(1) 計画策定の背景と目的	1
(2) 計画の位置付け	1
2. 計画対象施設、計画期間	
(1) 対象施設	2
(2) 計画期間	4
3. 計画対象施設を取り巻く現状と課題	
(1) 築年数・改築改修の実施状況について	4
(2) 学校施設の様々な利用について	5
(3) 学校施設に求められているニーズ	6
(4) 児童生徒数の推移	7
(5) 従来 of 建替え周期と財政負担	8
4. 学校施設の方向性	
(1) 基本的な考え方	8
(2) 「長寿命化」という考え方	9
(3) 改修・改築の周期設定	9
5. 構造躯体の健全性等について	11
6. 学校施設の改修計画等について	
(1) 長寿命化改修の限界について	11
(2) 学校施設の改修計画について	12
(3) 改修の実施時期等について	12
(4) 工程表	13
(5) 対策の費用	13
7. 今後の対応方針について	14

1. 計画策定の背景、目的と位置付け

(1) 計画策定の背景と目的

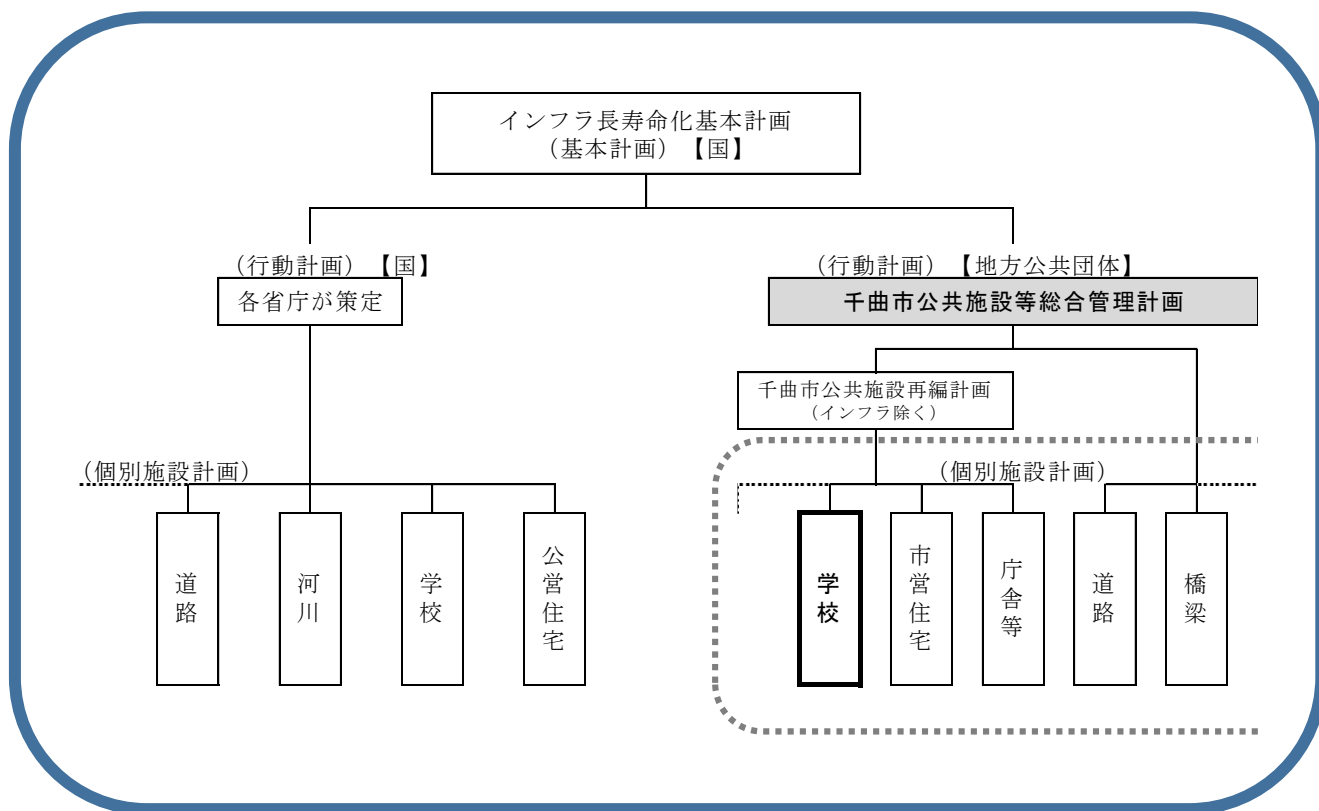
公共施設等の長寿命化対策については、平成 25 年 11 月に国において「インフラ長寿命化基本計画」が策定され、平成 26 年 4 月に地方公共団体においても公共施設等総合管理計画を策定するよう求められました。

本市においても、公共施設等の総合かつ計画的な施設の維持管理を進めるうえでの基本的な方針として「千曲市公共施設等総合管理計画」を平成 28 年 3 月に策定しました。

「千曲市公共施設個別施設計画（学校施設編）」は、「千曲市公共施設等総合管理計画」の基本方針に基づき、個別施設ごとの維持管理・更新等の対策の内容や実施時期などをまとめた計画として策定するものです。

(2) 計画の位置付け

本計画は、国の「インフラ長寿命化基本計画」を踏まえ、本市における公共施設の総合かつ計画的な管理に関する基本方針として策定した「千曲市公共施設等総合管理計画」を最上位計画とし、総合管理計画と本計画とを橋渡しする「千曲市公共施設再編計画」を上位計画とします。



2. 計画対象施設、計画期間

(1) 対象施設

本計画は、市内の小中学校の各施設を対象とします。

また、つばさ体育館や学校敷地外で運用中のことばの教室、総合教育センターも対象とします。

No.	施設名	建築年月	経過 年数	耐用 年数	主構造	延床面積 (㎡)	備考	
1	屋代小学校	校舎	S53(1978).3	46年	47年	R	5,361	
		体育館	S54(1979).3	45年	47年	R	1,198	
		プール棟	S57(1982).7	41年	34年	S	77	
2	東小学校	校舎	H25(2013).7	10年	47年	R	6,240	
		体育館	H25(2013).7	10年	47年	R	1,499	
		プール棟	H16(2004).6	19年	47年	R	39	
3	埴生小学校	校舎	S51(1976).3	48年	47年	R	6,489	
		体育館	S60(1985).11	38年	47年	R	1,213	
		プール棟	S51(1976).7	47年	34年	S	45	
4	治田小学校	校舎	S48(1973).3	51年	47年	R	6,099	
		体育館	S49(1974).5	49年	34年	S	782	
		プール棟	H22(2010).3	14年	34年	S	49	
5	八幡小学校	校舎	S55(1980).3	44年	47年	R	5,262	
		体育館	S55(1980).2	44年	47年	R	1,280	
		プール棟	S32(1957).7	66年	34年	S	71	
6	更級小学校	校舎	H15(2003).3	21年	47年	R	3,346	
			S56(1981).3	43年	47年	R	1,333	特別教室棟
		体育館	S61(1986).2	38年	47年	R	1,440	
		プール棟	H14(2002).3	22年	47年	R	81	
7	五加小学校	校舎	S50(1975).3	49年	47年	R	4,371	
		体育館	S60(1985).2	39年	47年	R	1,200	
		プール棟	H3(1991).7	32年	34年	S	78	
8	戸倉小学校	校舎	S47(1972).3	52年	47年	R	5,321	
		体育館	S48(1973).2	51年	47年	R	848	
		プール棟	H12(2000).3	24年	22年	W	82	
9	上山田小学校	校舎	S43(1968).2	56年	47年	R	5,237	
		体育館	S44(1969).10	54年	47年	R	1,241	
		プール棟	H29(2017).5	6年	22年	W	70	
10	屋代中学校	校舎	H11(1999).6	24年	47年	R	7,158	
		体育館	H14(2002).1	22年	34年	S	1,762	
		武道場	H11(1999).10	24年	34年	S	499	
		プール棟	H12(2000).3	24年	22年	W	45	
		部室棟	H11(1999).10	24年	34年	S	245	
		教育支援 センター	H11(1999).3	25年	22年	W	138	
11	埴生中学校	校舎	H9(1997).2	27年	47年	R	5,033	
		体育館	H14(2002).12	21年	34年	S	1,417	
		武道場	H9(1997).2	27年	47年	R	460	
		部室棟	H9(1997).2	27年	47年	R	294	
		教育支援 センター	H10(1998).3	26年	22年	W	140	

No.	施設名	建築年月	経過年数	耐用年数	主構造	延床面積(m ²)	備考	
12	更埴西中学校	校舎	H19(2007).11	16年	47年	R	7,582	
		体育館	H28(2016).12	7年	47年	R	1,479	
		武道場	H3(1991).3	33年	34年	S	416	
		プール棟	H11(1999).3	25年	22年	W	39	
		部室棟	H21(2009).3	15年	34年	S	137	
		教育支援センター	H11(1999).3	25年	22年	W	140	
13	戸倉上山田中学校	校舎	H30(2018).8	5年	47年	R	8,485	
		体育館	H30(2018).8	5年	47年	R	2,667	
		武道場	H30(2018).8	5年	47年	R	786	
		プール棟	H11(1999).3	25年	47年	R	129	
		部室棟	R元(2019).5	5年	22年	W	167	R4:建築年修正
		教育支援センター	H30(2018).8	5年	22年	W	153	R4:構造修正
14	つばさ体育館	体育館	H11(1999).6	24年	47年	R	1,138	戸上中
15	ことばの教室		S47(1972).4	51年	34年	S	167	屋代小
16	総合教育センター	会議室棟	H14(2002).12	21年	34年	S	1,288	埴生中
		プール棟	H14(2002).12	21年	34年	S	1,079	

※種別ごとの面積を合計し、延床面積を算出した。年代は主として一番古いものを採用。

※更級小学校については、特別教室棟のみ建築年度が大きく異なったために2段書きとした。

※経過年数…令和6年4月1日現在

※耐用年数…「資産評価及び固定資産台帳整備の手引き(平成26年9月30日 総務省事務連絡)別紙3」及び「減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)」により設定

※主たる構造…R:鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄筋コンクリート造、S:鉄骨造、W:木造(施設台帳を基に記載)



(2) 計画期間

本計画の期間は、令和3年(2021)年4月から令和13年(2031)年3月までの10年間とします。

3. 計画対象施設を取り巻く現状と課題

(1) 築年数・改築改修の実施状況について

①校舎

小学校については昭和40年代後半から50年代に建てられた建物が多く、2030年度末には東小学校以外の小学校では、築50年を超えることとなります。また、中学校については、2030年度には屋代中学校・埴生中学校がそれぞれ30年を超えることとなります。

小学校については耐震化を優先しており、内装や設備等の実施状況は学校ごとに異なります。内装の大規模な改修が未実施の学校については、保全的な部分修繕等で対応しているのが現状です。

中学校については戸倉上山田中学校の改築事業が終了し、耐震化が完了しました。屋代中学校・埴生中学校が改築後大規模な改修を実施してないため、どのように進めるかが課題となります。

②体育館

小学校中学校ともに概ね校舎と同時期に建築されています。校舎と併せてどのように整備していくかが課題となります。

小学校の体育館についても、耐震改修と合わせて必要に応じて外装(屋根・外壁)の改修を行っていますが、LED照明になっていない体育館や多目的トイレが設置されていない学校もあり、どのように対策をしていくのか検討が必要です。

中学校については、校舎同様戸倉上山田中学校の改築により耐震化が完了しましたが、屋代中学校・埴生中学校が改築後大規模な改修を実施してないため、どのように整備するかが課題となります。

③武道場

屋代中学校・埴生中学校・戸倉上山田中学校は、概ね校舎と同時期に建設されています。更埴西中学校のみ校舎と同時期に建て替えをしておらず、築30年を経過しています。どのように整備していくかが課題となります。

④部室棟・教育支援センター

校舎改築と同時期に建てられています。校舎と併せてどのように整備していくかが課題となります。小学校の教育支援センター(ふれあいルーム)は教職員住宅を活用して運営しています。今後どのように教育支援センターを運営していくかが課題となります。

⑤プール棟

プールの改修や改築に合わせて必要に応じて建て替えを行っているため、学校ごとに建築年数が異なります。プール設備の改修と併せてどのように改修を進めるのかが課題となります。埴生中学校のプールは総合教育センターと一体となっているため、どのように改修をしていくかが課題となります。

⑥その他の施設について

【つばさ体育館】

戸倉上山田中学校の敷地内に設置されている社会体育施設です。平成11年に建設されており、老朽化が進んでいます。どのように改修をしていくかが課題となります。

【ことばの教室】

言語発達障害の児童のために開設しており、屋代小学校近くの施設を利用しています。旧倉庫であった建物を小規模に改修しながら利用しています。大規模な改修等を行っておらず、建物の断熱性能が低いため、今後の施設の運用をどうしていくか検討する必要があります。

【総合教育センター】

総合教育センターは、教育に関する調査や研修、市民の学習、スポーツ活動支援の施設として、埴生中学校の屋内運動場とプールも兼ねた総合施設です。学校施設としての「体育館機能」「プール機能」のほか、「教育センター」の機能があります。

プール機能については、一般市民への開放も行っておりましたが、維持費が高額であることから現在では原則として一般開放を行っておりません。

今後どのように改修を行い運用していくかが課題となります。

(2) 学校施設の様々な利用について

学校施設は、学校教育以外にも放課後児童クラブの実施や地域図書館の開設、地域活動の拠点としてのボランティアルームの設置、社会体育利用や避難所としての利用など、地域の様々な用途に利用されています。



上山田小学校では普通教室棟の余裕教室を放課後児童クラブとして利用しています。



更埴西中学校では校舎内に地域図書館を併設し、共同で使用しています。



(3) 学校施設に求められているニーズ

学校施設には様々なニーズが求められています。代表的なものは以下のとおりです。

①子どもたちの学習・生活の場

学校施設は子どもたちが日ごろ生活をする場所です。安全安心に学校生活を送ることが出来る環境を整える必要があります。そして、学校は子どもたちの教育のための大切な場所です。児童生徒は学校において知識や技能を習得し、能力を伸ばすとともに、社会の形成者としての基本的な資質を養い、集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することで社会的自立の基礎や規範意識を身につけていきます。このため、学習しやすい環境を整えることがとても大切です。

学校施設としては、ICT環境の整備やキャリア教育の実現など、教育環境の多様な変化に対応しうる弾力的な整備が求められています。

加えて、すべての子どもたちが不自由なく過ごせるようにするためには、施設のバリアフリー化も進める必要があります。

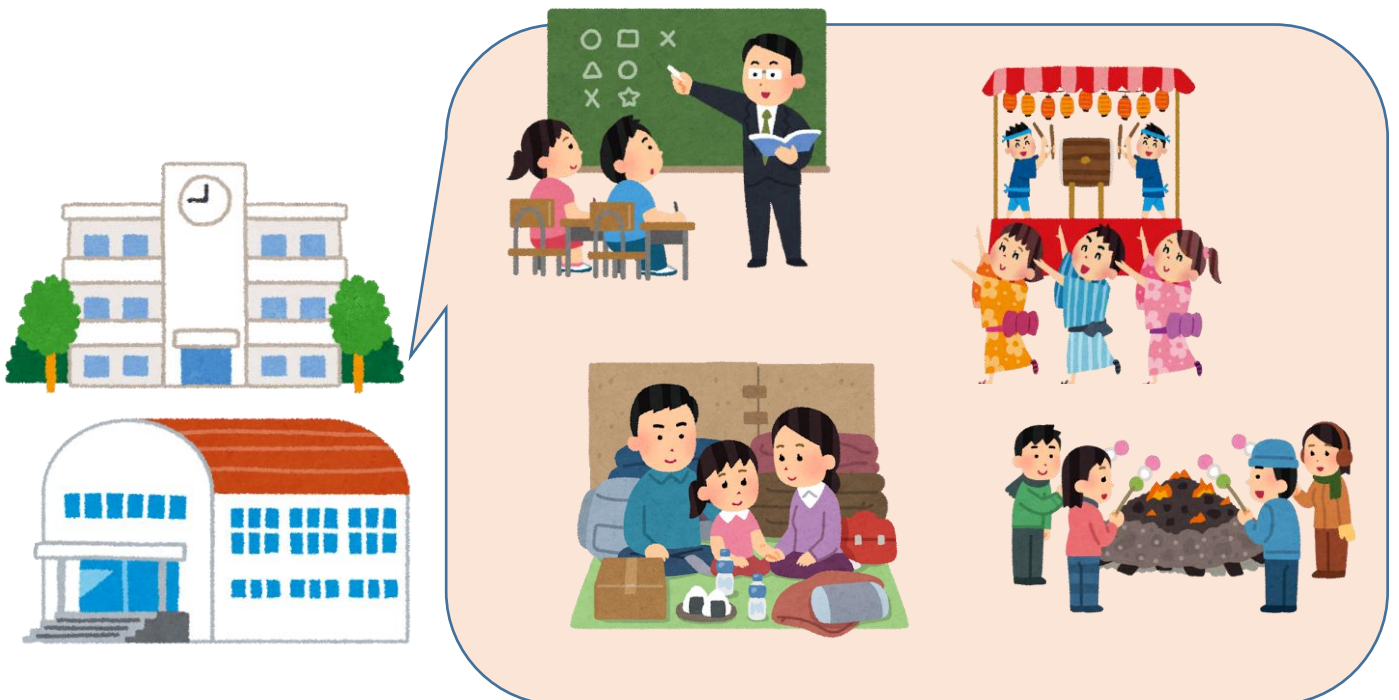
②地域コミュニティの拠点

学校は教育のための施設であるだけではありません。地域にとって最も身近な公共施設であり、地域のコミュニティの拠点としての役割を担っています。また、「千曲型コミュニティスクール」の考え方にに基づき、地域の皆で子どもたちを育てる取り組みも行われています。

地域における学校施設の在り方は、まちづくりの在り方と密接不可分であり、学校施設の在り方を考える際には、学校や地域の特性などを十分踏まえながら進めていく必要があります。

③防災の拠点としての学校

令和元年10月に発生した「令和元年東日本台風」でも、学校施設は地域の避難施設として重要な役割を果たしています。近年増加する大規模災害を踏まえ、多くの人数が収容可能な施設として、さらに重要性が増しています。

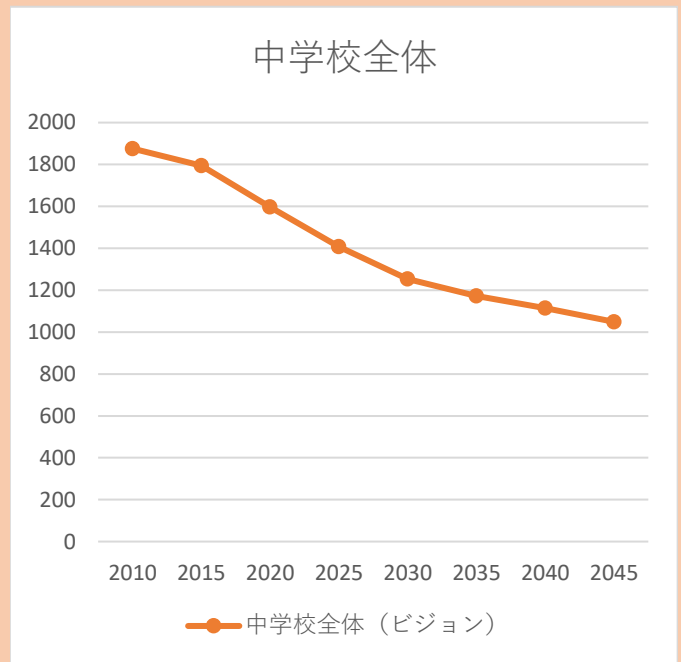
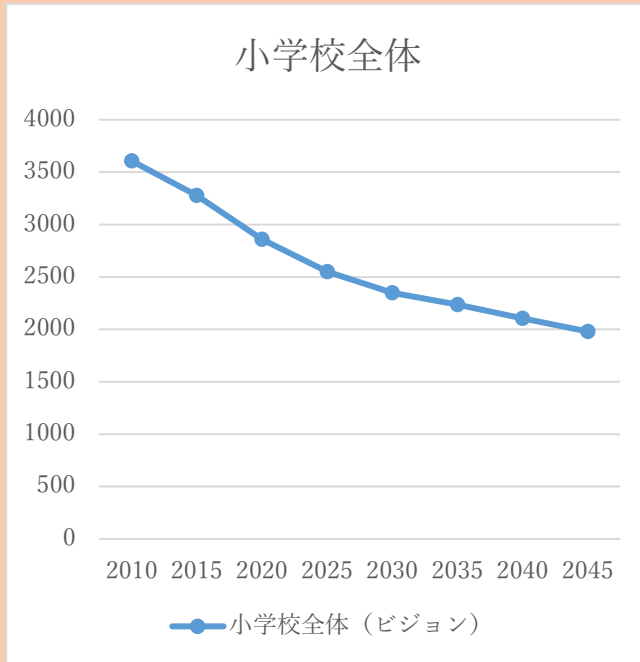


(4) 児童生徒数の推移

市の公共事業整備や企業誘致政策により、地区ごとの人口の減少・増加に変化が生じます。将来的に学校を整備・改修をするにあたり、人口の推移に注視しながら実施をしていく必要があります。

平成 28 年 2 月に市が作成した「千曲市人口ビジョン」によれば、市全体として児童生徒数が減少することが示されています。また、地域によっては人口が増加するとの予想もされています。将来に向けて児童生徒数を注視しながら検討する必要があります。

図表 児童生徒数の推移（縦軸：人数 横軸：年）



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
小学校	3,608	3,277	2,859	2,550	2,350	2,237	2,106	1,980
中学校	1,876	1,794	1,598	1,407	1,254	1,172	1,114	1,049

(単位：人) 千曲市人口ビジョンを基に作成

(5) 従来の建替え（改築事業）周期と財政負担

市では、過去の建替え（改築事業）の状況から鑑みて、概ね築50年前後で建替え（改築事業）を実施しています。50年周期とした場合には、2030年度末までには、小学校の校舎については9校中8校が建替えの時期に来ており、体育館については9校中5校が建替えの時期に来ています。

対象となる全ての校舎と体育館について建替えを行った場合、過去の実績を基に試算をすると、対象となる建物の建替えを完了するまでにかかる費用は以下のとおりとなり、財政負担が集中します。どのように財政負担を緩和しつつ改修・改築を実施していくかが課題となります。

2030年度末までに築50年を迎える学校			
校舎	屋代小・埴生小・治田小・八幡小・更級小（一部）、五加小、戸倉小、上山田小		
体育館	屋代小、治田小、八幡小、戸倉小、上山田小		
上記の全てについて建替え（改築事業）をする場合に要する費用			
校舎	合計 39,473 m ²	約141億7080万円	過去実績から改築単価（m ² あたり）を算出。 （校舎：359,000円/体育館：512,000円）
体育館	合計 5,349 m ²	約27億3868万円	

※単価については過去の建替え（改築事業）を参考に算出した試算であり実際の金額とは異なる。

4. 学校施設の方向性

(1) 基本的な考え方

学校施設は教育施設として重要な施設であるとともに、地域の中核的な存在であることから、市の再編計画に基づき、児童センター等との複合化を行いつつ、存続を図ります。

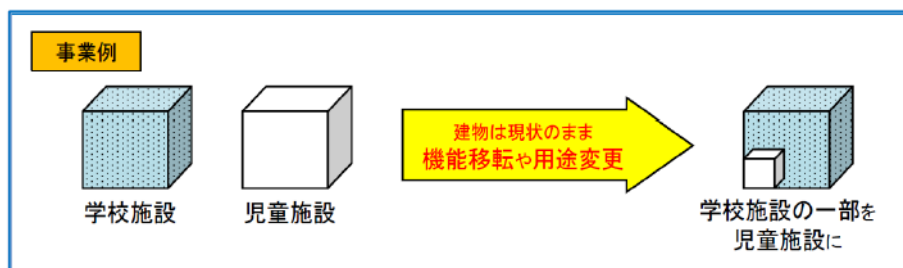
イ 再編の方向性

再編の方向性		再編の考え方 ※P10の3を参照	実施時期		
			前期 2018～2024	中期 2025～2034	後期 2035～2044
【記号の解説】○：現状維持 △：総量縮減 ●：用途変更・統合等					
△	小学校は、児童・生徒数の減少が見込まれる施設を大規模改修又は建て替える際は、延床面積の縮減を図る。	⑤			↔
●	普通教室として使用しなくなった教室等に、児童センター・児童館の機能を移転して複合化を図る。				
○	中学校は、建替えを実施したため、現状を維持する。	-	-	-	-

⑤ 今ある施設を可能な限り有効活用

耐用年数の超過や到来により建替えや大規模改修が必要になる施設は、他の既存施設の状態等を考慮しながら機能移転や用途変更を行う等、今ある施設を可能な限り有効活用し、行政サービスが低下しないよう配慮しながら施設の縮減を進めます。

【イメージ図】



（千曲市公共施設再編計画より抜粋）

(2) 「長寿命化」という考え方

建物は「躯体」が健全である限り、「躯体以外の外装・内装・設備等」を適切に保全・改修をすることによって、長く有効に活用することが可能です。躯体の健全性を確保しつつ、適切に保全・改修を行うことで建物の寿命を従来よりも長くすることを「長寿命化」といいます。「長寿命化」という手段は、建替えと比較して構造体（柱や梁）の工事が減少するため、中長期的な視点ではトータルコストの縮減につながります。

また、「長寿命化」の考え方では、致命的な劣化が出る前に改修を行う「予防保全」の改修が中心となり、何か事態が発生してから対応する「事後保全」に比べて、より低コストで安全性を確保し、計画的効率的に整備をすることが可能です。

さらには、長寿命化の考え方に基づく改修を行うことにより、限られた予算で多くの施設で機能性の向上を図ることができ、多様化する学校のニーズに速やかに対応することが可能です。

長寿命化改修は従来の改築中心の考え方に比べて公共施設再編計画に示された「今ある施設を可能な限り有効活用」する手段として望ましいと考えられます。

本市では、トータルコスト縮減の考え方を基に学校施設の長寿命化を図っていくことを基本とします。また、躯体としての耐用年数を目標使用年数として位置付け、構造躯体の目標年数を次のとおり設定します。

図表 構造別・用途別の望ましい目標使用年数

構造別・用途別の望ましい目標使用年数				
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨造	軽量鉄骨造	コンクリート ブロック造	木造
80年	80年	40年	60年	50年

（「建築物の耐久計画に関する考え方」（日本建築学会）を参考に設定）

(3) 改修・改築の周期設定

建築物が経年により劣化する一方で耐震性や省エネ性能等の社会的要求水準は年々高まり、機能に支障が発生する可能性もともに高まります。

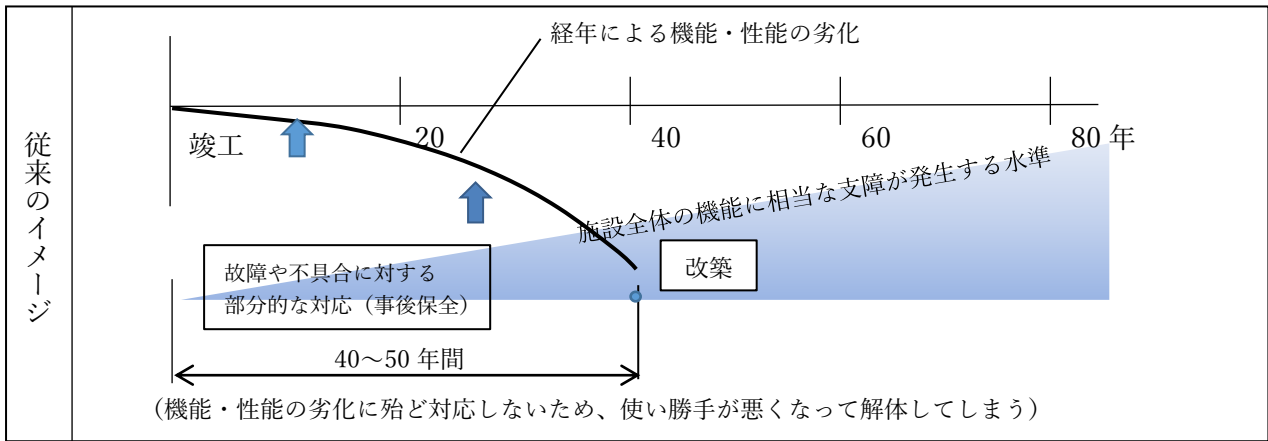
躯体の目標使用年数を80年とした場合には、中間年で新築時の整備水準を超える長寿命化改修を行い、さらに部位の更新時期に併せて20年周期で定期的な中規模改修を行うことで、建築物を使用している間、建築物に求められる性能が確保できる状態を維持することが望ましいと考えられます。

なお、目標使用年数を80年とした施設は、原則的に躯体健全性調査を中間年度に行う事とし、躯体が目標年数における使用に耐えうるかどうかを確認します。長寿命化が可能であると判断された施設のみ長寿命化を見据えた改修を行っていきます。

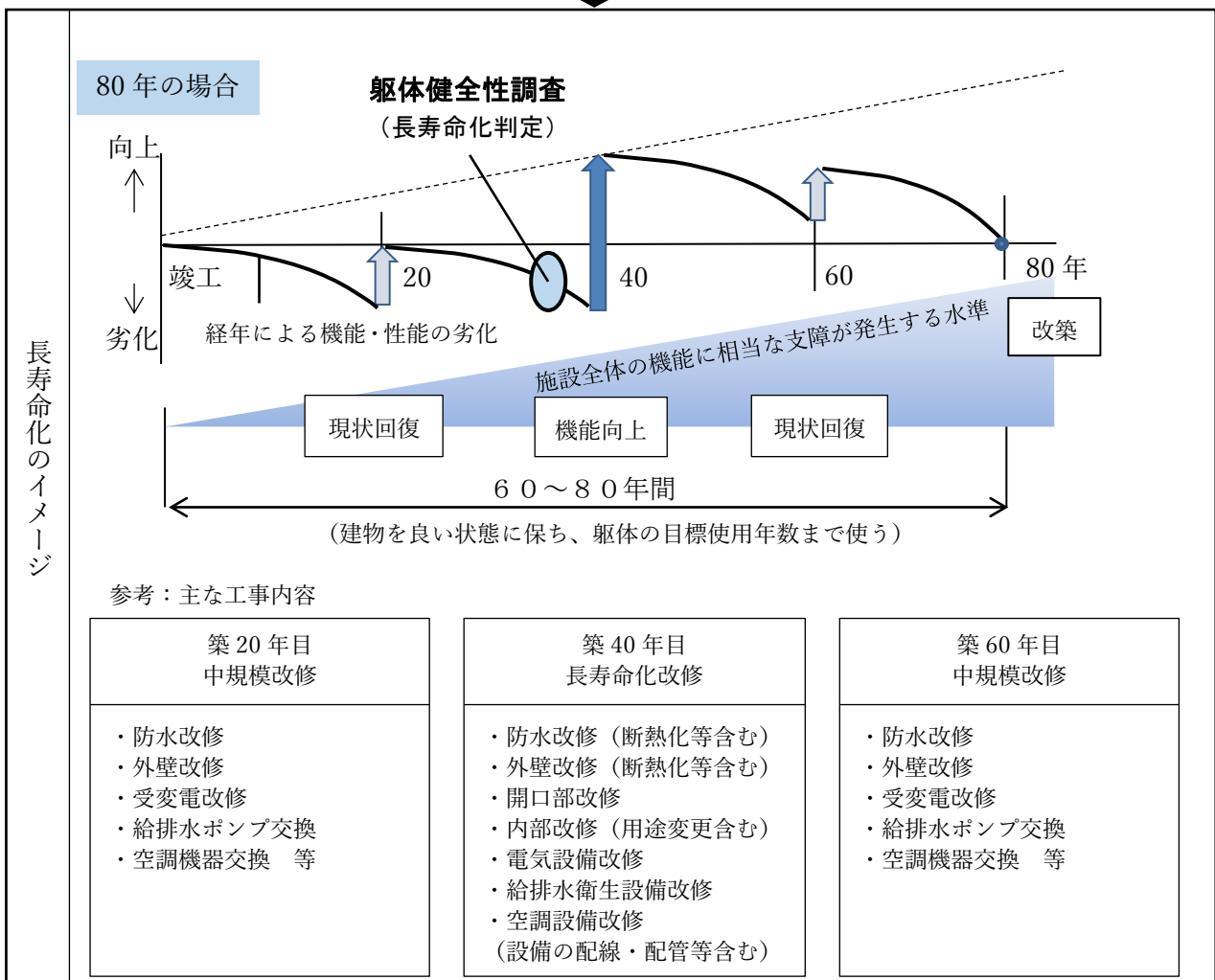
長寿命化が困難な施設や建替えを行った方が安価であるような小規模な建物等については、原則として校舎や体育館の改築の周期や改修事業にあわせて建替えを行い、コストの縮減を図ります。（プール棟や教育支援センター等）

また、武道場や部室棟についても、校舎の改築の周期や改修事業に合わせて建替え又は改修を行い、コストの縮減を図っていきます。

図表 修繕、改修、建替えの標準イメージ（躯体が健全で80年まで使用できる場合）



長寿命化



「学校施設の長寿命化計画策定の手引きと解説（文部科学省）」を参考に作成

中規模改修 (予防保全工事)	竣工後20年と60年目を目途に実施する改修で、屋上防水や外壁補修、設備機器の更新などを行います。主に建物の機能回復を目的とします。
長寿命化改修	竣工後40年目を目途に実施する改修で、中規模改修の項目に加えて、給排水管の更新、空調ダクトの更新、躯体の中性化対策などを行います。 主に建物を現状の社会的要求水準まで高めること、以降40年間の使用に耐えるものとするを目的とします。

5. 構造躯体の健全性等について

計画策定段階における躯体の「健全性」の判断の仕方については、過去の調査結果やコンクリート中性化深さ試験及びコンクリート強度の調査が有効であるとされています（学校施設の長寿命化計画策定の手引きと解説（文部科学省）より）。過去の学校施設の耐震診断結果によれば、現時点において学校施設の躯体は健全であり、学校施設の長寿命化は十分可能であると考えられます。

引き続き定期報告調査などの法定点検や職員による巡回等により、劣化状況を注視していく必要があります。

6. 学校施設の改修計画等について

(1) 長寿命化改修の限界について

長寿命化改修をした場合は、長期的には建替えの回数を減らすことによるトータルコストの縮減を行うことが可能です。しかしながら長寿命化改修のコストは建替え費用の概ね6～7割程度と想定され、全ての建物について長寿命化改修を実施した場合でも、財政負担の集中を避けることは困難となります。また、同時期に長寿命化改修を行うことにより、建物の寿命の時期も集中するため、将来的にも同様の問題が発生する可能性があります。

2030年度末までに築50年を迎える学校

校舎	屋代小・埴生小・治田小・八幡小・更級小（一部）、五加小、戸倉小、上山田小
体育館	屋代小、治田小、八幡小、戸倉小、上山田小

上記の全てについて建替え（改築事業）をする場合に要する費用

校舎	合計 39,473 m ²	約141億7080万円	過去実績から改築単価（m ² あたり）を算出。
体育館	合計 5,349 m ²	約27億3868万円	（校舎：359,000円/体育館：512,000円）

※単価については過去の建替え（改築事業）を参考に算出した試算であり実際の金額とは異なる。



長寿命化改修をする場合における費用

校舎	合計 39,473 m ²	約99億1956万円	改築単価の7割として試算
体育館	合計 5,349 m ²	約19億1708万円	（校舎：251,300円/体育館：358,400円）

(2) 学校施設の改修計画について

今までの内容を踏まえ、学校施設等の改修については以下のとおり進めていきます。

①校舎・体育館

東小学校や戸倉上山田中学校など、建替えが完了した学校については、改修の周期に基づき、適切に保全改修を行っていきます。

築40年～50年を超える校舎を有する東小学校以外の8小学校の校舎については、長寿命化改修を行う時期に来ているものの、財政負担が著しく集中しています。そのため学校施設の適正規模・適正配置の検討や他の公共施設との複合化・共用化の推進等、教育の質の維持とコストの集中を防ぐ方法を検討したうえで、改修計画を検討していきます。

五加小学校については、児童数の増加による教室不足が予測されるため増築工事を計画します。また、五加小学校敷地全体において、治水対策の一環として外構整備（雨水浸透施設設置工事）を計画します。

屋代中学校・埴生中学校については築20年～30年であるため、中規模改修を計画します。

その他長寿命化改修や中規模の改修工事を実施するまでの間に必要な保全修繕（水道工事や床工事等）を適宜実施していきます。

つばさ体育館についても、戸倉上山田中学校の敷地内にあり、中学校での利用頻度も高いことから、あわせて改修時期を検討します。

②武道場・部室棟・教育支援センター

校舎や体育館等の改修計画に合わせて整備を行い、全体的なコストの縮減を図ります。

なお、定期報告調査などの法定点検や職員による巡回等により、劣化状況を定期的に確認し、必要に応じて小規模な保全修繕を実施し、建物全体の劣化を防ぎます。

小学校の教育支援センターは教職員住宅を活用していることから、公共施設の空きスペースへの移設を検討します。

③プール棟

プール設備（プールの浴槽やろ過装置等）の改修の計画や将来の在り方を検討し、必要に応じて改修・改築を行います。総合教育センター併設のプール施設の方向性についても、学校授業での利活用の可能性も踏まえて検討していきます。

経過年数を踏まえ劣化状況を適宜確認しつつ必要に応じて小規模な保全修繕を行います。

④ことばの教室

現在の建物については、建物自体の断熱性能が低く劣化もしてきていることから、「ことばの教室」の移設を検討します。移設終了後、ことばの教室については解体を予定します。

⑤総合教育センター

埴生中学校の体育館とあわせて中規模の改修を実施します。プール施設の改修の有無については、プール設備の在り方を踏まえたうえで決定します。

(3) 改修の実施時期等について

小学校の建替え及び長寿命化改修の在り方を検討していくとともに、屋代中学校・埴生中学校の中規模改修工事を並行して検討していきます。

(4) 工程表

施設名	建築年度	耐用年数	計画期間(年度) 上段:対策内容 下段:対策費用 (単位:千円)										対策費用合計	対策により期待される効果
	経過年数	目標使用年数	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030		
屋代小学校	S52	47	修繕	修繕	修繕	修繕		耐力度調査	調査結果を基に改修工事を行う。				54,861	安全性・利便性の向上
	46	80	4,675	4,873	5,313	10,000		30,000						
東小学校	H25	47											0	現状維持
	10	80												
埴生小学校	S50	47						耐力度調査	調査結果を基に改修工事を行う。				30,000	安全性・利便性の向上
	47	80						30,000						
治田小学校	S47	47						耐力度調査	調査結果を基に改修工事を行う。				30,000	安全性・利便性の向上
	51	80						30,000						
八幡小学校	S54	47						耐力度調査	調査結果を基に改修工事を行う。				30,000	安全性・利便性の向上
	44	80						30,000						
戸倉小学校	S46	47											0	現状維持
	52	80												
更級小学校	H14	47											0	現状維持
	21	80												
五加小学校	S49	47		実施設計	増築改修	増築改修	外構整備	外構整備					409,900	安全性・利便性の向上
	49	80		8,360	23,950	262,590	50,000	65,000						
上山田小学校	S42	47						耐力度調査	調査結果を基に改修工事を行う。				30,000	安全性・利便性の向上
	56	80						30,000						
屋代中学校	H11	47								実施設計	予防改修		510,000	安全性・利便性の向上
	24	80								10,000	500,000			
埴生中学校	H8	47						実施設計	設備更新	実施設計	予防改修		535,000	安全性・利便性の向上
	27	80						5,000	20,000	10,000	500,000			
更埴西中学校	H19	47											0	現状維持
	16	80												
戸倉上山田中学校	H30	47						実施設計	EV設置				55,000	安全性・利便性の向上
	5	80						5,000	50,000					
対策費用合計			4,675	13,233	29,263	272,590	120,000	225,000	10,000	510,000	500,000	0	1,684,761	

※令和3年度(2021年度)から令和4年度(2022年度)は決算額、令和5年度(2023年度)は決算見込額、令和6年度(2024年度)は予算額、令和7年度(2025年度)以降は計画(概算)額

(5) 対策の費用 (R3~R4:決算額、R5:決算見込額、R6:当初予算額、R7以降:概算額)

【屋代小学校】

- R3(2021)年度: 4,675千円 普通教室床改修工事
- R4(2022)年度: 4,873千円 普通教室床改修工事
- R5(2023)年度: 5,313千円 普通教室床改修工事
- R6(2024)年度: 10,000千円 普通教室床改修工事
- R8(2026)年度: 30,000千円 耐力度調査

【埴生小学校】

- R8(2026)年度: 30,000千円 耐力度調査

【治田小学校】

- R7(2025)年度: 30,000千円 耐力度調査

【八幡小学校】

- R8(2026)年度: 30,000千円 耐力度調査

【五加小学校】

- R4(2022)年度：8,360千円 教室棟増築工事実施設計
R5(2023)年度：23,950千円 教室棟増築工事（12,400千円）
プールろ過装置改修工事（11,550千円）
R6(2024)年度：262,590千円 教室棟増築工事
R7(2025)年度：50,000千円 外構整備工事
R8(2026)年度：65,000千円 外構整備工事

【上山田小学校】

- R7(2025)年度：30,000千円 耐力度調査

【屋代中学校】

- R10(2028)年度：10,000千円 実施設計
R11(2029)年度：500,000千円 中規模改修（予防保全）工事

【埴生中学校】

（中学校）

- R9(2027)年度：10,000千円 実施設計
R10(2028)年度：500,000千円 中規模改修（予防保全）工事
（総合教育センター）
R7(2025)年度：5,000千円 空調設備更新工事実施設計
R8(2026)年度：20,000千円 空調設備更新工事

【戸倉上山田中学校】

- R7(2025)年度：5,000千円 エレベーター設置工事実施設計
R8(2026)年度：50,000千円 エレベーター設置工事

7. 今後の対応方針について

本計画の進行管理は、所管課である教育総務課が行います。教育総務課では、少子化の状況における適切な学習環境の確保や地域の中核としての学校施設の在り方を引き続き検討しながら、本計画の進行をしていきます。

また、「千曲市公共施設等総合管理計画」との整合性を図りつつ、施設の劣化状況や社会情勢等に柔軟に対応するため5年ごとに計画の見直しを行います。更に工程表は、計画の実現性を高めるため、毎年度ローリングします。

毎年度の取組状況は、千曲市公共施設等総合管理計画推進本部において点検し、議会へ報告するとともにホームページ等で公表します。

千曲市公共施設個別施設計画

学校施設編

令和3年3月策定（毎年度更新）

千曲市総務部財政課

〒387-8511 長野県千曲市杭瀬下二丁目1番地

TEL 026-273-1111(代) FAX 026-273-1004

E-mail : zaiseika@city.chikuma.lg.jp

(本計画を策定した課・施設所管課)

千曲市教育委員会 教育総務課